

## 水分れフィールドミュージアム ビオトープヒストリー Sequel

藤井菜々美・幸長正樹・北岡樹・畑幸慶・余田葉月・北岡朝陽・幸長未真  
海老原茉里奈・東明彦

### はじめに

これまで水分れフィールドミュージアムの近くの扇状地にあった田んぼを借り上げて、その場所にビオトープを創出していましたが、今年度より丹波市市島町上田にある三ッ塚遺跡公園内にある池を借りて、新たにビオトープを創出し調査と整備をおこなっています。

これまでの農業体験事業から引き継いだ形で、「みわかれいきもの調査隊」というグループを立ち上げ、このグループのメンバーを中心に毎月1回の調査と整備を続けてきました。



4月27日の調査・整備

ビオトープは遺跡公園内にあるので、周囲はフェンスで囲まれており、水は周辺の水路につながった暗渠から流れ込んでいます。公園は田畑に囲まれており、公園内も広々としています。季節ごとの樹々や草花が美しい、大変にいい環境にビオトープがあります。

池の底にもやはり遺跡があるので、その遺跡を土で埋め戻して、その上に水が溜まっているという状況です。ただ、長い間にキシノウブやコウホネ類の外来植物が繁茂しており、特にコウホネ類の地下茎が縦横にビオトープの底に広がっているため、夏の季節には水面が見えないほどの植物が繁茂します。また、鉄バクテリアの被膜と思われる赤い油のようなものが浮いている部分もあり、水質も場所によって違っていることも推測されます。

整備としては、コウホネ類の地下茎をブロック状に切り出して水面を広げるような作業を繰り返し、水生生物や水生昆虫が生息できるスペースを広げることをめざしました。こうした活動で得られた1年間のビオトープの移り変わり、生き物の種類と個体数の変化のデータを使って活動の内容をまとめました。その成果を共生のひろばで皆様に見ていただこうと参加しました。

### 方法

ビオトープ調査と整備を月に1回のペースで定期的に行い、繁茂する外来植物の除去を少しずつ進めながら、ビオトープのいろいろな場所でガサガサをして、生き物を採取します。そのあとで生き物の種類・個体数を記録していきました。在来の生き物については、種類と個体数を記録したあとは元の生息場所にもどし、外来植物と外来生物については駆除する方法で調査を続けました。

No.	月日	内容	場所
1	4月19日(土)	ビオトープってなに?(研修会)	水分れフィールドミュージアム
2	4月27日(日)	第1回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ
3	5月18日(日)	第2回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ
4	6月22日(日)	第3回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ
5	7月19日(土)	第4回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ
6	8月24日(日)	第5回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ
7	9月28日(日)	第6回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ
8	11月22日(土)	第7回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ
9	12月21日(日)	第8回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ
10	1月18日(日)	第9回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ
11	2月22日(日)	第10回ビオトープ調査と整備	三ッ塚遺跡公園ビオトープ

